

11月22日

殉教者おとめセシリア

Caecilia/Cecilia

セシリアはローマ・カトリックではとても慕われている聖人です。伝説によると、3世紀に殉教したといわれています。彼女はローマの貴族の家に生まれ、父は元老院の議員でした。彼女の夫ヴァレリアヌスはローマの兵士でキリスト教徒を迫害する立場にありましたが、天使によって守られているというセシリアの言葉に驚き、自らも身を清め、洗礼を受けてキリスト教徒になります。さらに彼の弟ティブルティウスも、セシリアの導きのもとで洗礼を受けました。この一年後、セシリアの夫とその弟の二人は、キリスト教徒として訴えられます。しかし信仰を捨てることを拒み、処刑されます。その後セシリアも訴えられますが、訴えられるまでの五か月間、彼女は自分の財産を貧しい人に分け、自分の土地にカタコンベを建設し、自宅を聖堂として提供しました。

セシリアが貴族の出身であったため、恐れのため死刑を隠そうとした裁判官は、彼女を自宅に連れて行きます。そしてサウナのようなローマ式の風呂場に閉じ込めて、24時間火をたき続けて、湯気で窒息死させようとしたが、彼女は死にませんでした。そこで死刑執行人が仕方なく刃物で彼女の首を切りつけましたが、途中で恐怖



「天使と聖セシリア」
by ドメニキーノ
(1618年)
ルーヴル美術館

のため、逃亡してしまいます。セシリアは、半分だけ首を切られた状態で3日間、苦しんだすえに天に召されました。

遺体は聖カリストゥスのカタコンベに葬られました。そして9世紀にローマ市内に移されます。5世紀に建てられた、彼女の名のついた聖セシリア教会に安置されるためでした。

1599年にこの教会は修復されますが、その時彼女の遺体は、腐敗していない生きた姿のままで見つかったといわれています。顔だけうつむき、両ひざを合わせて静かに横たわる姿だったそうです。その姿を形取った美しい大理石の彫刻が、今も聖セシリア教会の祭壇の下に安置されています。

セシリアは「心のうちで、神に音楽を奏でていた…」という結婚式の描写から、オルガンと教会音楽の守護聖人とされます。

<特禱>

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者おとめセシリアに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。
アーメン